施策評価シート

施策421

1. 基本情報

評価対象年度　（　29　年度）

施策コード	421		施策名	自然環境の保全			
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち（「基盤づくり」の分野）					
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち					
主担当部	都市整備部		主担当課	水と緑の環境課	主担当係	緑と公園係	
担当者	佐々木　秀貴		役職	都市整備部長	内線	360	
関係課	生涯学習スポーツ課						

2. 施策の方向

10年後の姿	雑木林、崖線、屋敷林などの緑地や河川など、豊かな自然環境が適切に保全されています。	
施策の方向性	1	自然の大切さを広め、緑地や水辺など自然環境の保全に努めます
	2	雑木林の再生と水辺と親しめる環境を整備し、うるおいを感じるまちづくりを進めます

3. 構成事業の状況

（単位：千円）

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
0104010401	環境衛生事務事業		1	水と緑の環境課	2,042	1,951	2,353
0108030504	緑地保全事業	対象	すべて	水と緑の環境課	29,470	42,024	25,494
0108030508	カタクリまつり事業		すべて	水と緑の環境課	602	548	555
0108030510	柳瀬川回廊事業	対象	すべて	水と緑の環境課	763	6,000	500
0110050113	清瀬下宿ビオトープ公園管理事業		2	生涯学習スポーツ課	2,456	2,460	2,530
総事業費（施策の合計）					35,333	52,983	31,432

4. まちづくり指標

指標情報						平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成32年度	平成37年度
①	名称	市が保全する緑の面積			目標値	5.2	5.2	5.2ha以上	5.2ha以上	5.2ha以上
	説明		単位	ha	実績値	5.2	5.2			
	抽出方法	公有財産台帳など			達成率	100.0%	100%			
②	名称	身近な水辺や緑に親しみを感じると思う人の割合			目標値	—	—	—	75.0	80.0
	説明		単位	%	実績値	—	72.2			
	抽出方法	市政世論調査（平成29、32、35、38年度実施）			達成率	—	—			

5. 評価（平成29年度実績に対する）

評価基準		評価※	評価理由
投入財源・成果（「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」）に対する評価	総合評価（成果、投入財源等を総合的に評価）	維持	自然環境団体と市の協働による雑木林の再生などに取り組んでいるが、相続による生産緑地（畑）の減少により、緑被率の維持が年々難しくなっている。このような中、緑地の減少を防ぐため、公有地化を進めている。今後も土地所有者などから情報収集を行い、市の財政状況を考慮しながら、将来を見据えた上で、必要最小限のまとまりのある緑地の公有地化が必要となる。 柳瀬川回廊事業については、推進検討委員会の答申を受け、今後は具体的な整備方針や年次計画を策定し、整備していく。 ビオトープ公園はシルバー人材センターへ管理の業務委託をしており、その財源は、全て都支出金となっている。毎年会議を三者（東京都下水道局、清瀬市、自然を育む会）で行っており、年3回の清掃や運営管理の状況について協議している。また清明小学校では、自然を育む会の協力の下、公園の自然についての勉強会や自然観察会を実施している。また入場者数は毎年3000名前後で推移しており、大きな変動はない。そのため評価としては維持とした。

※順調「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	平成29年度市政世論調査では市のみどり豊かな自然環境がよいから住み続けたいと思う人が約60%いる。	3.施策の必要性を高める	市のみどりの保全は多くの方から評価されているため、この施策を高め魅力的なものにすることで市の財産価値を高める。
将来人口の推移	高齢化が進行している。	3.施策の必要性を高める	今後の高齢化の進行を見据えて、みどりが人に潤いと安らぎをあたえ、身近に感じてもらうために、緑地の保全や散策路等の整備が重要になっている。
他自治体との比較	近隣5市の中では、緑被率は一番高い。	1.施策遂行に役立つ・有利	市の魅力としてより一層取り組みを推進するのに有利である。 また、一方では生産緑地が多いことで、道路整備やまちづくりの課題となっている。
民間企業・NPO・市民の動向	緑地保全活動は、その多くが組織化された環境団体に頼っているのが現状である。その団体も高齢化しており、後継者が不足している。	2.施策遂行に不利	環境団体は、市役所よりも専門的であり、積極的に活動しているため、環境団体の後継者不足は施策後退につながる。

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	緑地の減少を防ぐため、公有地化を進める必要があるが、財政状況は厳しい。			
	関連する事務事業名	緑地保全事業			
	現在の取組状況	財政状況を考慮しながら、まとまった緑地の公有地化を進めるため、清瀬市土地開発公社に先行取得を依頼して、国や都補助金の活用できる時期に市が買い戻しを実施している。			
	平成31年度以降の取組	「緑確保の総合的な方針」や「都市計画公園・緑地の整備方針」の改訂時期に優先整備区域として都市計画決定する。国や都の補助金を活用し公有地化を進める。			
②	施策を進める上での課題	雑木林の再生の象徴事業としてオオムラサキの飼育を実施して7年目となったため、新たな展開に向けた検討が必要である。また、オオムラサキの飼育を今後どのような方法で誰が行うかなどの課題がある。			
	関連する事務事業名	緑地保全事業			
	現在の取組状況	市民の憩いの場となる雑木林の若返りを図り、オオムラサキが舞うような雑木林を再生するため「萌芽更新」と「オオムラサキの飼育」を清瀬市みどりのサポーターの協力のもと実施している。また、オオムラサキ飼育の循環技術も確立されたことから、その生態についてさらに広く市民の方に理解して頂くため、飼育ケージの一般公開や環境教育の一環としてオオムラサキ飼育体験を実施している。			
	平成31年度以降の取組	オオムラサキ飼育をボランティアが主体となり飼育管理し、飼育だけでなく雑木林の管理作業などにも参加を促す。今後、継続的に実施するためには清瀬市みどりのサポーターの増員が必要となるため、各種イベントやホームページ、広報等で広くオオムラサキの飼育ボランティアを募集し、ボランティア組織を強化する。			
③	施策を進める上での課題	私有林や所有者不明の森林を市町村自ら平成31年度から森林環境譲与税が譲与される。また、平成36年度から森林環境税が課税され市において賦課徴収を行うことになる。			
	関連する事務事業名	緑地保全事業			
	現在の取組状況	平成31年度から譲与される森林環境譲与税の使途を検討している。			
	平成31年度以降の取組	緑地環境保全区域（私有林36,664㎡）や都市計画緑地・特別緑地保全地区等（市有林52,375㎡）を対象とした萌芽更新を実施する。			